

IEA石油市場レポートの概要（2015年8月12日公表）

（代表部仮訳のため、正確には IEA のホームページを参照）

1. 原油価格は、7月から8月上旬にかけて急落。豊富な供給とドル高が主な要因。世界の石油価格指標は、8月上旬には6月末と比較して約25%落ち込み。レポート記述時点での原油価格は約\$49/bbl（ブレント）、約\$43.30/bbl（WTI）。
2. 2015年の世界石油需要の伸びは、160万b/dと見込まれる。これは先月のレポートから20万b/dの増加であり、近年5年間で最大の増加ペース。主な要因は、堅調な経済成長及び低価格な石油に対応した消費増による。持続的なマクロ経済の堅調さは、トレンド以上の伸びを支え、2016年の伸びは140万b/dと見込まれる。
3. 世界の石油供給は、主にOPEC非加盟国の生産量減少により、7月に約60万b/dの減少。OPEC加盟国の原油生産は、引き続き近年3年間で最大規模の生産量を維持している。低価格と支出削減が打撃となり、OPEC非加盟国の供給増加は、2014年の記録的な240万b/d増から今年は110万b/d増へ、更には2016年の増分は20万b/d減少することが見込まれる。
4. OPECの原油供給は、7月に1万5千b/dだけ減少し、3179万b/dとなった。これは、サウジアラビアにおける先月と比較した場合の緩やかな生産増と、イラクの記録的な生産やイランの生産増とが打ち消しあった結果による。2016年のOPEC原油に対する需要は、3080万b/dとなり、今年より140万b/dの増となる。これは、堅調な需要見通しとOPEC非加盟国の供給増が失速していることによる。
5. OECD諸国の在庫は、季節的傾向とは逆に990万b/d増加し、6月には29億1600万bの最大を記録した。これは、平均的在庫レベルを2億1000万b上回る記録的な数字である。「他製品」の季節的な在庫補充が同様に増加し続けており、6月末の精製製品は、31.3日分の需要を満たす規模となり、5月末より0.2日分増加した。
6. 世界の精製量は、7月に記録的な8060万b/dまで達し、前年比で320万b/dの増加であるが、変化が出始めている。高いレベルでの在庫はシンガポールにおけるクラックス・スプレッド*を2009年以来の最低レベルにまで押し下げしており、アジアにおける稼働率引き下げを促している。他の地域、特に米国では、引き続き拡大するクラックス・スプレッドが高い利益率と精製量を支えている。

※原油と石油製品（ガソリン等）の価格差。